



紫根牡蛎湯 (しこんぼれいとう)

【処方コンセプト】 なかなか治らない皮膚やリンパ腺の頑固な炎症に。

皮膚やリンパ腺の頑固な疾患で、慢性化して体力も落ち（虚証に陥る）、過労・貧血傾向が顕著になり、さらに治りにくくなった状態に試みる漢方処方である。

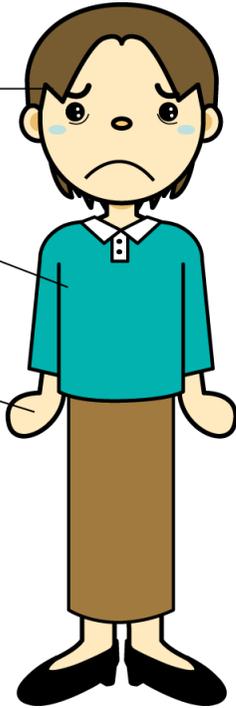
◆紫根牡蛎湯は水戸西山公の蔵方として伝えられている。原典の『黴癘新書(ハイレイツショ)』や『勿誤薬室方函口訣』には「無名の頑瘡(ガンソウ)を治す」とある。これは、病名がわからないが、手足や顔、胸背などに出来て、なかなか治らない皮膚病、リンパ・乳腺の腫物、膿瘍などをさすと考えられる。

◆工藤球卿は「痔痛、痘疹に宜しく、また乳岩、肺癰(ハイヨウ)、腸癰(チヨウヨウ)を治す」と述べている。

貧血
血色が悪い
疲労感

リンパ腫の
はれ

皮膚病
皮膚が
かサカサ



痘疹：天然痘などの病 乳岩：乳房の治癒し難い疾患（乳がんなど）
肺癰：肺化膿症 腸癰：虫垂炎など

◆紫根+当帰は紫雲膏でも用いられている組み合わせで、内服、外用共に血行を促進し、炎症を鎮め皮膚機能を回復させる。皮膚炎や痔の痛みに用いることが多い。

◆本方には、一定の証を明確にすることは珍しいとされているが、主に熱性の血によって起こる化膿性腫瘍（乳腺の痛み・リンパの腫れなど）で、長引くものや虚証を呈して疲労感・貧血などを訴えるものを目標にするといふ。

◆これらの目標に従って、乳腺症(炎)、皮膚やリンパ腺の腫瘍、肺や腸の腫瘍、扁平コンジローマなどの疾患に応用されている。

【処方構成】 10味

主薬の紫根（シコン）には清熱・解毒・排膿の働きがあり頑癬悪瘡を治す。忍冬（ニンドウ）、升麻（ショウマ）にも清熱・解毒の働きがあり紫根の作用を助ける。牡蛎は硬く頑固な腫瘍をやわらげ、大黄（ダイオウ）の瀉下・駆瘀血の働きもこれらに協力する。黄耆（オウギ）には補気・固表の働きがあり、当帰（トウキ）・川芎（センキュウ）・芍薬（シャクヤク）（四物湯から地黄を抜いたもの）には、補血の働きがあり、互いに虚証を改善して皮膚の機能を調える。甘草（カンゾウ）はこれらの諸薬を調節して補強する。



	清熱			解表										補気			理気		活血		補血		その他		配合生薬数				
	紫根	忍冬	金銀花	連翹	前胡	升麻	柴胡	薄荷	桂皮	荊芥	防風	羌活	独活	生姜	甘草	黄耆	茯苓	大棗	枳殼	桔梗	桃仁	牡丹皮	川芎	当归		芍薬	牡蛎	大黄	
紫根牡蛎湯	○	○				○									○	○							○	○	○	○	○	○	10
桂枝茯苓丸								○									○				○	○			○				5
桂枝加黄耆湯								○						○	○	○		○							○				6
荊防敗毒散			○	○	○		○	○		○	○	○		○				○	○				○						14

処方名	類方鑑別
紫根牡蛎湯	なかなか治らない皮膚やリンパ腺の頑固な炎症に。虚証で貧血傾向の方に。
桂枝茯苓丸	皮膚症状で瘀血の状態が明確な場合のファーストチョイス。うっ血しやすく、下腹部に痛みを訴える方に。
桂枝加黄耆湯	肌のしまりが悪く、ジメジメした汗や寝汗をよくかく方に。
荊防敗毒散	比較的体力があり、赤くはれて、化膿して、痛むおでき、皮膚炎などに。